

## 南北バス路線要望に係る勉強会（議事録）

日 時	令和2年7月17日（金）午前10時から正午	
場 所	八幡市立福祉会館3階 活動室3	
相手方	井上 学	立命館大学アトリエセンター 客員協力研究員
	金澤 重之	京都運輸支局 首席運輸企画専門官
	神田 将希	// 輸送・監査部門 旅客係長
	神原 孝夫	京阪バス(株) 経営企画室 課長
	三田 剛史	// 係長
	後藤 博成	// 労働組合 書記長
	槻木 章	京都京阪バス(株) 管理部 部長
	杉本 英樹	// 労働組合 書記長
	武田 徳久治	署名発起人
	西村 克美	//
	村松 忠雄	//
当 方	市管理・交通課 増永課長補佐 、 佐野係長	

### ●目 的

南北バス路線要望における課題認識を共有し、今後の方向性を定める。

当方より南北バス路線要望の概要を参加者に説明し、その後署名発起人による陳述、他の参加者からの意見をいただき、今後について協議した。

### ●発言要旨

（武田）

- ・ 元々老人会から南北バス路線を希望する声があった
- ・ 現状では八幡宮、背割等の観光地に容易に行けない
- ・ 文化センターでのイベント参加や市の検診に行く場合も不便  
→ 署名活動を始めるキッカケ

（西村）

- ・ 乗換の出来る大芝（松井山手方面）のバス停は歩道もなく危険である
- ・ 自助努力による対応は困難である

（井上）

- ・ 大芝のバス停は確かに危険であり、バス待ち環境の改善は必要

- 地域によるバス路線の要望は、大半が要望はするが利用はしない
- 地域の皆さんで公共交通を利用する機会を持ち、ワークショップで課題を抽出してみてもどうか

#### (金澤)

- 地域特性を把握することが大事。地域特性を踏まえ、今後の網形成計画に反映していくことになる。

#### (神原)

- 南北バス路線の実現は難しい。試行運転時も利用者が少なかったし、現在の利用状況を見ても採算が見込めない。
- コロナの影響で売上が減少し、経営が危ない(緊急事態宣言時の売上げが前年比90%減。現在でも前年比30%減)

#### (槻木)

- 採算の取れない路線を走らせるのは難しい
- 採算を取るには1便平均12人程度の利用が必要

#### (後藤)

- バスに乗るための勉強会を施策として取り組んでいる自治体がある

#### (杉本)

- 南北バス路線を走らせた場合、月何回の利用があるというデータがほしい

#### (井上)

- 車以外の移動手段を利用出来ない人が交通弱者です
- まずは車中心の生活から公共交通中心の生活に転換する必要がある

#### (村松)

- バス路線があることにより車中心の生活からの脱却が図れるのでは
- 市として住民の足の確保をどう考えているのか

#### (増永)

- 新名神の開通に伴い企業誘致が見込まれ、これにより新たな公共交通のニーズが生まれると考える。
- 今後、公共交通のマスタープランである地域公共交通網形成計画を策定

する。

- 策定にあたっては地域特性を把握するため、必要な調査は実施していくことになる。また地域公共交通会議を通じて各方面からの意見をいただき反映していく。

## ●今後について

今後も引き続き署名発起人とは連絡を取り合い、まずは地域特性を把握することや公共交通に関する知見を深めるため、地域を限定したワークショップの開催を検討する。

## <所見>

署名発起人とバス事業者等の発想は全くの逆となっている。バス路線の充実により公共交通の利用が増えると署名発起人は考えるが、それでは利用者は増えないとバス事業者等は考えている。なぜなら車中心の生活様式である美濃山・欽明台地域の方は公共交通が充実してもそれを利用するという発想に至らないからである。これでは採算と取るのは難しい。

だからこそ、まずは地域全体を通して公共交通を利用していくという環境を醸成していくことが大事であり、今後もそういった環境を醸成していくようにリードしていく必要がある。（佐野）

当該地域住民が公共交通を積極的に利用しなければ既存路線（松井山手～樟葉）さえ現状維持できなくなってしまう。それほどバス事業者の現状は厳しい。

地域として「行政にやってもらって当然」という意識を変えていくことが先に取り組むべきことだと考える。（増永）